

ゼロからわかる

経済学の思考法

小島寛之



講談社現代新書

2178

ゼロからわかる

経済学の思考法

常州大

小島寛之

蔵

書

章

講談社現代新書

2178

N.D.C.331 240p 18cm

ISBN978-4-06-288178-4

講談社現代新書 2178

ゼロからわかる ^{けい ざい がく} 経済学 ^{し こう ほう} の思考法

2012 年 10 月 20 日第 1 刷発行

著 者 ^{こ じま ひろ ゆき} 小島寛之 ©Hiroyuki Kojima 2012

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目 12-21 郵便番号 112-8001

電 話 出版部 03-5395-3521

販売部 03-5395-5817

業務部 03-5395-3615

装幀者 中島英樹

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan



本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。㊞〈日本複製権センター委託出版物〉複製を希望される場合は、日本複製権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。

目 次

まえがき	3
------	---

開講の前に 経済学って何なんだ？	9
------------------	---

経済学との最初の出会／経営者として生の経済と触れる
／人生最大級の衝撃！／経済学への期待と失望／現実解析
の学問としては無力に近い／芽生えた疑念と解決策

第1講 経済活動にも法則性がある？	25
-------------------	----

運動の法則を求めて／経済学がなかなか進歩できない理由
／経済の何を解明したいのか？／アダム・スミスの問題設
定／「価値」と「価格」は違う／需要・供給の原理／「需
要・供給の原理」の根拠はなに？／経済学の致命的な弱点
／実験経済学のアプローチ／水が安くて、ダイヤモンドが
高い理由／「欲望」と「嗜好」を式にする

第2講 モノを交換する意味	53
---------------	----

簡単なモデルで考える／お金を無視する／物々交換をシミ
ュレートする／「好み」を数式化する／みんながハッピーに
なる状態／モデルのリアリティを高めていく／モノを交換
することの意義／選好の理論は経済学の根幹／いろいろな

市場を物々交換で表現してみる

第3講 お金はなぜ必要か ————— 83

物々交換には限界がある／欲望の二重の一致／「お金」の便利さ／海底の石貨／ハイパーインフレとデフレ／所得と金融資産／お金は必要から自然発生した／お金はどうしてお金と認められるのか／清滝－ライトの貨幣理論／均衡を導出するロジック／お金が流通する世界、しない世界／貨幣経済の問題

第4講 オークションが導く価格 ————— 113

市場取引はなぜ必要か／オークションにはどんな種類があるか／市場経済とプライステイカー／市場の匿名性／内的評価とは、心の中での値踏み／内的評価とオークションの関係／供給曲線と需要曲線／需要と供給の一致で決めるとなぜハッピーか／均衡は本当に実現可能か／不況が起きるのは矛盾ではないのか

第5講 社会の協力を描写する ————— 145

社会っていったい何だ？／ゲーム理論の誕生／ゲーム理論とは何か／協力ゲームとはどんなゲームか／協力ゲームを式で表現しよう／全体合理性と個人合理性／協力ゲームを解くとは／分業の利益／シャプレーの考えた解／限界貢献

に注目する／費用の共同負担をモデル化する／タクシーの
相乗りではいくらずつ負担すべきか／バンドのギャラ配分
を決める／飛行場の費用負担

第6講 グループの離反をふせぐ方法 — 177

集団には離反がつきもの／個人合理性を拡張する／投票行
動を協力ゲームに仕立てる／投票ゲームにはコアが存在し
ない／拒否権のある投票ゲーム／生臭い問題を解くために
／合コンのカップル成立の望ましいあり方／ゲールーシャ
プレーのアルゴリズム／実社会への応用例

第7講 「社会の協力」から 「需要・供給の原理」へ ————— 199

協力ゲームと市場／商談を協力ゲームに仕立てる／売買ゲ
ームの解／買い手が2人になったら？／買い手が多いと売
り手が有利になる／2人の売り手と2人の買い手の場合
は？／売り手も買い手も2人ずつの場合のコア／「一物一価
の法則」の証明／片方が取引できないケース／需要と供給
を協力ゲームで読みとく

長いあとがき 経済学はどんな未来を見つめているか — 232

参考文献 ————— 240

ゼロからわかる
経済学の思考法

小島寛之

講談社現代新書

2178

まえがき

本書はタイトルのとおり、いかなる予備知識も数学の知識も前提とせずに、ゼロから「経済学の思考法」を講義するものである。

本書を書店で手に取っているあなたは、経済学に対して、ある種の感慨を持っておられることと思う。それはきっと、「経済学は小難しい」、そして、「ちっとも現実的ではない」、というものではないだろうか。ぼくは経済学者として、このような一般のかたの感慨に誠実に答えようと思っている。

第一に、「経済学は小難しくはない」、そして、「経済学はとても面白い」ということ。

第二に、「経済学が現実的ではない、というのはそのとおり」、でも「それには固有の理由がある」ということ。

一言でまとめるなら、「経済学の等身大の姿を読者に伝えたい」、それが本書のテーマなのである。

「ゲーム理論」という新しい分野を生み出して経済学に革命を起こした数学者フォン・ノイマンは、かつて、

経済理論の普遍的な体系は現在まだ存在していないし、われわれの存命中に完成されることはまずあるまい

と言った。これは、経済学の近未来を予言したものと言っている。実際、フォン・ノイマンが没してから50年以上が経過した今も、この予言は正しいままである。

テレビや新聞で、経済学があたかも堅固な真理性を備えたものであるかのようにうそぶく人がいるが、そんな言説に騙されてはいけない。彼らの知性はノイマンの足下にも及ばないことは明らかだ。ノイマンは、そうした人たちの虚構性に対して、

理論がまったく歯の立たないような経済改革や社会改革に、いわゆる《理論》なるものを適用しようとする有害無益な実践行為

と辛辣な表現で警句を述べている（詳しくは第5講参照のこと）。

ぼく自身、ノイマンの警句はそのとおりだと思う。経済学は、現在、経済現象に対する予言能力は備えていないし、現実の説明能力も乏しいと言わざるを得ない。ただし、それには経済学固有の事情がある。それは本書の中で包み隠さず解説している。

他方、ぼくは、ノイマン以降、経済学は人間行動の背後にあるロジックを解明する手法を確立しつつあると思っている。そして、それは知的にとっても面白いも

のだと感じている。その面白さを、読者の皆さんに本書でお伝えしたい。

大学で経済学を学んだ人も、社会人になってから教科書をひもといた人も、経済学に関して「役に立たない」感を持っておられるだろう。その印象を大幅に変えることは本書ではできない。

けれども、多少改善することなら可能だと思っている。既存の教科書の解説は、あまりに古くさいうえ、数学的にも難しい。しかし、「経済学の思考」の本質はそういうものとは別のところにあるのである。もっと新しめの理論を使えば、もっと簡単に、もっと手に入るように、経済学の原理を理解することが可能になる。本書では、そういう解説に挑戦した。

読了したあかつきには、皆さんは、経済学への印象をちょっとだけ前向きなものに変更できるだろう。そして、仕事の中でも、ほんのわずかにだけれど、役立てられるようになるだろう。

目 次

まえがき	3
------	---

開講の前に 経済学って何なんだ？	9
------------------	---

経済学との最初の出会／経営者として生の経済と触れる
／人生最大級の衝撃！／経済学への期待と失望／現実解析
の学問としては無力に近い／芽生えた疑念と解決策

第1講 経済活動にも法則性がある？	25
-------------------	----

運動の法則を求めて／経済学がなかなか進歩できない理由
／経済の何を解明したいのか？／アダム・スミスの問題設
定／「価値」と「価格」は違う／需要・供給の原理／「需
要・供給の原理」の根拠はなに？／経済学の致命的な弱点
／実験経済学のアプローチ／水が安くて、ダイヤモンドが
高い理由／「欲望」と「嗜好」を式にする

第2講 モノを交換する意味	53
---------------	----

簡単なモデルで考える／お金を無視する／物々交換をシミ
ュレートする／「好み」を数式化する／みんながハッピーに
なる状態／モデルのリアリティを高めていく／モノを交換
することの意義／選好の理論は経済学の根幹／いろいろな

市場を物々交換で表現してみる

第3講 お金はなぜ必要か ————— 83

物々交換には限界がある／欲望の二重の一致／「お金」の便利さ／海底の石貨／ハイパーインフレとデフレ／所得と金融資産／お金は必要から自然発生した／お金はどうしてお金と認められるのか／清滝－ライトの貨幣理論／均衡を導出するロジック／お金が流通する世界、しない世界／貨幣経済の問題

第4講 オークションが導く価格 ————— 113

市場取引はなぜ必要か／オークションにはどんな種類があるか／市場経済とプライステイカー／市場の匿名性／内的評価とは、心の中での値踏み／内的評価とオークションの関係／供給曲線と需要曲線／需要と供給の一致で決めるとなぜハッピーか／均衡は本当に実現可能か／不況が起きるのは矛盾ではないのか

第5講 社会の協力を描写する ————— 145

社会っていったい何だ？／ゲーム理論の誕生／ゲーム理論とは何か／協力ゲームとはどんなゲームか／協力ゲームを式で表現しよう／全体合理性と個人合理性／協力ゲームを解くとは／分業の利益／シャプレーの考えた解／限界貢献

に注目する／費用の共同負担をモデル化する／タクシーの
相乗りではいくらずつ負担すべきか／バンドのギャラ配分
を決める／飛行場の費用負担

第6講 グループの離反をふせぐ方法 — 177

集団には離反がつきもの／個人合理性を拡張する／投票行
動を協力ゲームに仕立てる／投票ゲームにはコアが存在し
ない／拒否権のある投票ゲーム／生臭い問題を解くために
／合コンのカップル成立の望ましいあり方／ゲールーシャ
プレーのアルゴリズム／実社会への応用例

第7講 「社会の協力」から 「需要・供給の原理」へ ————— 199

協力ゲームと市場／商談を協力ゲームに仕立てる／売買ゲ
ームの解／買い手が2人になったら？／買い手が多いと売
り手が有利になる／2人の売り手と2人の買い手の場合
は？／売り手も買い手も2人ずつの場合のコア／「一物一価
の法則」の証明／片方が取引できないケース／需要と供給
を協力ゲームで読みとく

長いあとがき 経済学はどんな未来を見つめているか — 232

参考文献 ————— 240

**開講の前に
経済学って何なんだ？**

経済学との最初の出会い

本書は、経済学、中でもミクロ経済学の基本中の基本を解説する本だ。しかし、既存の教科書や入門書とは大きく異なるアプローチをしている。なぜそうになっているのか。それは、ぼくの経済学との出会いや経済学者としての現在のありようと大きく関係する。学問分野の解説本では普通、書き手の経験や来歴は、あとがきに書くものであって決して導入部で開陳するものではない。しかし、本書では、わざとその禁を破ろうと思う。なぜなら、それがないと、この本で何をしようとしているのかが読者になかなか伝わらず、読者が途中で迷子になってしまう心配があるからである。

ぼくが経済学らしきものと最初に出会ったのは、高校の政治・経済の教科書だったと思う。たしかに、政治・経済の教科書には、世の中の経済の仕組みが丁寧に説明されていた。人々の生活が、生産と消費によって営まれていること。消費するモノは、市場で価格を付けて売り買いしていること。市場で付く価格は、需要と供給のつりあい（需要曲線と供給曲線の交点）から決まること等々。

今もそうかな、と疑問になって、2012年度の政治・経済の教科書を2種類取り寄せてみた。経済の部分だけ眺めているが、ぼくが教わった頃とあまり変わっていない印象がある。「市場のはたらき」という項

目に、需要曲線と供給曲線のことが載っている。しかし、本文ではなく欄外の記載だ。これらの曲線が何を意味しているかは、通り一遍に説明されてはいるが、これでは高校生にはなんだかさっぱりわからないだろう。ぼくも高校生のときはそうだった。

そもそも高校生は、ほとんど生産に携わったことがない。アルバイトも少しはするだろうが、それも家の手伝いの延長程度であり、経済活動と呼べるものではない。また、消費についても、おこづかいの範囲内のことであり、たいていの生活必需品は家庭から得ているから、モノの売買というダイナミズムが理解できようはずはない。

ぼくも、高校生で経済を教わったときは、まるで別世界の絵空事を聞かされているような気分だった。これは、歴史の教科書への印象とまったく同じだった。自分とは無縁の遠い世界のことを、単なる「暗記すべき知識」としてインプットされているにすぎない、と感じたものだった。

中でもとりわけ意味不明だったのが、「需要・供給の原理」である。

需要曲線とは消費者の価格に対応する購買予定量を表すもので、供給曲線とは生産者の価格に対応する販売予定量を表すもの。その二つの曲線の交点を与える価格と取引量に、実際の価格と取引量が決定される、と教わった。

ぼくは理系だったので、二つの曲線の交点で何かが